

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム サンフラワー

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホームサンフラワー		
所在地	岩手県宮古市板屋4丁目4番2号		
自己評価作成日	平成 29 年 10 月 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2017_022_kani=true&I_gyosyoCd=0390200079-00&PrEfCd=03&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 10月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

□入居者一人一人の生活歴・特技を活かした「お手伝いリハビリ」や余暇支援への取り組み、また、近隣の小学校との交流や、地域行事への参加を通じた積極的な地域交流です。
 □重度化した場合、母体施設へ継続的に移り住める連携体制が密接に図られ、ご家族の安心と信頼につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人の理念「いたわりとやさしさ」を基に、事業所の理念(「一人一人にあった対応を心掛け、その人らしい生活を支援します。」「入居者の気持ちに寄り添い、安心してもらえるように支援します。」「地域との交流を継続し、つながりを大切にします。」)を、職員全員で話し合っ決めてたものであり、理念を共有し実践していることが、管理者や職員の言動から窺われる。歴代の千徳小学校長は、運営推進会議の委員として就任し、生徒たちの合唱委員会や清掃等奉仕活動を課外教育一環として進め、また、地区の婦人たちの「おしゃべり倶楽部」(ボランティア)が定期的(年4回)に来訪し音楽療法を継続しているなど、地域の一員として日常的に交流し、その繋がりは揺るぎないものになっている。家族は、毎月の通院に遠方からでも来訪し、職員と懇談していること、また、利用者の誕生日には、ケーキを持参し、他の利用者や職員と一緒に過ごしている等、家族と事業所の信頼関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム サンフラワー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の運営方針を職員で考え、いつも目に見えやすい場所に掲示し職員間で共通の認識をもった上で共有と実践に努めている。	法人の理念を基に、事業所の理念を職員全員で話し合って定め、実践に努めている。また、職員の行動規範(笑顔、尊厳、守秘義務等7項目)を遵守し、質の高いサービスの提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会主催の行事へ参加したり、地域の小学校の生徒やボランティアとの交流など積極的に取り組んでいる。	自治会に加入しており、住民票を移していない入居者も地区の敬老会に招待され参加している。千徳小学校生徒による合唱委員会の演奏(ユニフォームのチェックのスカートが可愛いと利用者が喜んでいる)、「おしゃべり倶楽部」(地区の主婦のボランティアグループ)の音楽療法等、地域との交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元住民によるお喋り倶楽部との交流を定期的に行っており、認知症の方への支援の方法や実際の暮らしぶりに接していく中で認知症に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動内容や利用者の状況を報告し、委員の方から率直な意見や助言をいただき、業務に活かしている。	会議には、利用者、家族代表、千徳小学校長、自治会長、民生委員、市役所職員他が参加し、会場がホールのため、利用者の様子を観察することも出来る。会議では、利用者の活動状況や行事予定、ひやりハット事例が報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で活動状況を報告し、助言をいただいている。	市の担当者には、運営推進会議の場や電話で相談し指導、助言頂き、協力関係が築かれている。市の地域ケア会議には、法人が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないという事を職員一人一人が理解し、窓や玄関なども施錠せず抑圧感がない普通の暮らしを支援している。	身体拘束しないケアについて、職員一人ひとりが理解しケアに当たっている。夜間を除き玄関や居室の窓に施錠していない。居室では、センサーは使用せず、動くとき鈴が鳴るよう椅子に工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待といった人権無視のケアはあってはならないことと認識し、業務の中で不適切と思われるケアを放置せず注意をしようほか、カンファレンスの中でケアを見直す取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修を通じて学んだ制度の理解や知識を、支援が必要となった場合は助言や橋渡しができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際は十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。料金改定の際は文章通知や来訪時に説明し、疑問な点があれば応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を年2回設け、意見交換が出来ている。	担当職員の顔を知りたいという家族の意見で、玄関に写真を掲示している。母の日・父の日に併せての食事会と、敬老の日の2回実施している家族懇談会は、家族同士のコミュニケーションの機会になっている。また、家族はよく面会にきており、意見、要望を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議・カンファレンスを通じケア現場の職員の意見を聞き、モチベーションやケアの質の向上につなげている。会議に参加出来ない場合も意見等のメモを活用し全員の意見を反映するように努めている。	年2回所長と職員の個別面談を実施し、意見要望を聞いている。業務改善会議・カンファレンスに出席できない職員は、意見・提案のメモを提出している。また、毎回、前回の個別ケアで検討された対策を改めて評価し、ケアの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や聞き取りを通じて、各職員の希望や提案等を把握したり職場全体でワークライフバランスにお取り組みを実施し、職場環境の整備につながるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせて、個人の研修計画を作成し必要な研修を受ける機会を確保し、スキルアップに繋がるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロックに参加し、お互いの業務状況を確認したり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族から事前の情報や要望を確認し、本人らしい生活や思いを感じ取り、徐々に馴染みの関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、グループホームでの生活やケアの方針について出来るだけ詳しく説明し、家族に戸惑う点や要望等に耳を傾け、関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新たな生活の場に徐々に馴染めるよう本人の要望に応えながら、段階的な支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の生活歴や特技を活かしたお手伝いりハビリや余暇活動への取り組み、お互い家族のように支えながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が途切れないよう通院対応は家族に行っていただいている。家族との連絡は積極的に行うほか、行事等の参加を呼びかけ、家族との関りを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や馴染みの場所にドライブをしたり、利用者の幼馴染の面会がある。	友人や同級生が面会に来ている、定期的に来訪する「おしゃべり倶楽部」の方々(12~13名)が馴染みの関係になっている。職員が行きつけの理容所に送迎したり、家族が行きつけの美容室に連れて行く方もいる。ドライブで訪れる浄土ヶ浜は、どの利用者にとっても馴染みの場所である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や認知レベルに配慮したり、利用者間関係の理解にも努め、利用者同士が関り合えるよう職員が橋渡し役をしている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先相談員やスタッフとの情報交換の場を持ち、本人の状況やケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の話に耳を傾け、信頼関係を作り、思いや意向を明らかにしている。	入居時のアセスメント「昔取った杵柄シート」「私の出来ること・出来ないシート」等から、暮らし方の希望を把握している。また、利用者との日々の会話で、毎日同じことを聞いて、同じことを答えるだけでなく、時おり聞かなかったことを話してくれることもあり、支援を行ううえでの重要な情報として職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に調査を行い、本人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の能力や、出来る事を発見に努め、「私時間の過ごし方」「私の出来る事、出来ない事シート」で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化していく利用者の状態に合わせたケアの工夫をカンファレンスで具体的に話し合い、実際に検証し出来る事が増えるように、また役割りとして続けられるようプランを作成している。	毎日のミーティングで話し合われたことを記録し、1か月毎のカンファレンスで確認している。状態に変化があった場合を除き、3か月毎にモニタリングし6か月毎に介護計画の見直しをしている。「昔取った杵柄シート」「私の出来ること・出来ないシート」等から得た事柄から利用者の役割を見出し、計画に取り入れている。計画は、本人・家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやちょっとした変化などはケース記録や申し送り、連絡帳で情報を共有し、必要に応じてケアプランの見直しや改善策を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元の自治会の敬老会やドライブに出かけたり、リンパマッサージ療法を受けるなど、様々なニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会の行事や地域の方、近隣小学校との交流、理美容院やスーパーなど地域の人や場の力を借りて取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に通院している。眼科や歯科なども本人の馴染みの医師に継続して診てもらえるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続している。定期的通院は家族が同行しており、東京や仙台から来る家族もいる。受診結果は家族から報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を捉え、そこから生じる急変を予測し、早い段階で協力機関の看護師に相談、受診しながら状態悪化を防いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族の同意を得た上で本人に関する情報提供を行い、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院につながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況を常に家族に伝え、重度化した場合は随時家族と今後の方針や施設での対応力などについて説明している。本体施設への継続的移行を話し合うなど家族には安心を抱いて受け入れられている。	入居時に、重度化した場合の対応について、事業所でできることを家族に説明している。重度化した場合には、随時、利用者の状況を家族に伝え、必要時には、法人の特別養護老人ホームを紹介する等を説明し、安心して頂いている。いまのところ、看取りは実施していないが、将来を見据えた研修の必要性を感じ始めている。	重度化や看取りに関しては法人全体で対応し当面の問題はありませんが、将来に備え、職員を対象とした看取りに関する基本的な研修を事業所内で実施することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいて、手順や方法の周知徹底や心肺蘇生法、AED使用法の訓練を実施し、緊急対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施し、地域の方が参加した避難訓練も実施している。日中想定や夜間想定など様々な場面を想定した訓練を行なっている。	消防署立会いの避難訓練を年1回実施している。また、定期的に、火災や地震を想定した訓練を実施し、地域の方々、運営推進会議委員、おしゃべりクラブ会員等の参加協力を得ている。今後、夜間の訓練を予定している。避難時の退室は、ドアに吊るされたボンボンで確認できるよう、工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営方針を念頭に、一人一人の人格を尊重して、気持ちに寄り添った対応を行っている。	トイレの声かけを必要としない方もおり、個々の状態に合わせた対応をしている。職員間の情報の伝達は、利用者の不審を招かないよう言葉に配慮し、私語は禁じている。誕生会に家族が来れない方には、職員が手作りしたケーキ(ホットケーキにトッピングし)と一緒に頂くなど、疎外感を抱かせることのないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、利用者が持つ思いや希望を引き出す環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性と持てる力を発揮しながら、本人が自然なペースで一日を過ごせるよう柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に本人が好む衣服を用意してもらっている。外出や行事の際はおしゃれをして出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合わせた食事形態で提供するよう配慮している。職員も利用者と一緒に食事をしている。	献立は、法人の管理栄養士が作成した献立を参考にし、職員が調理している。食材の買出しは、近くのスーパーに利用者と一緒にやっている。食材の準備や自分の食器の後片付け、テーブル拭き等を生活リハビリの一つとして実施している。誕生日には、何が食べたいか担当者が聞きだし、当日のメニューに取り入れている。職員は、一緒に同じ食卓で食事している。例年敬老会では、秋刀魚を供しているが、今年は不漁で、鮭に代えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や嚥下状態に応じた食事形態の工夫や嚥下の見守り等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、義歯と歯ブラシは除菌を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人にあった排泄用品を使用している。立位が困難な利用者も可能な限りトイレ誘導を行っている。	布パンツで自立の方、リハビリパンツと尿取りパットを使用し自分で交換する方等、一人ひとりの機能を把握し、自立や維持を支援している。車椅子使用の方もトイレに誘導し、立位で便座に移乗し排泄する支援を続けている。夜間もトイレに誘導し、ポータブルは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を心掛け、水分も十分な量を摂取できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。一対一で入浴を行い、ゆったりと入浴出来るようにしている。	浴室は、日曜日を除く毎日準備している。午前中に3人ずつで、週2回は入浴している。入浴拒否や異性介助の拒否は無い。介助の職員と1対1になり、ゆっくり会話できている。着替えは職員が準備している。家庭浴槽での入浴が困難な状態になった場合には、支援継続の可否を検討することになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお手伝いリハビリや余暇活動を行い、出来る限り身体を動かし、夜の熟睡につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬情報を個々のケースファイルで把握している。服薬支援を行い状態の変化がないか把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事を見つけ、それを活かした役割をケアプランに盛り込み、職員が感謝の気持ちを伝え、張り合いが持てるようにしている。季節の行事や誕生会、ドライブ、地域の行事への参加など出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域や近郊の学校の行事に参加し、交流を持っている。ドライブに出かけるなど外出する機会を作っている。	浄土ヶ浜など季節のドライブを楽しんでいる。直近の千徳小学校の運動会や学習発表会に招待され、喜んで参加している。事業所の周囲を散歩しているが、今年は雨の日が多く、廊下の往復に変更したこともある。庭の菜園のトマトやきゅうりの収穫も外出の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しく職員が管理しているが、買い物の際は個々の財布を持って出かけ、職員の見守りでやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により取り次ぐなど、自由に電話を使用出来るようにしている他、2ヶ月毎に近況報告とともに本人から家族に伝えたいことを書いていただき送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から採った季節の花や植物を食卓や洗面所に飾り、季節感を大事にした環境作りに心掛けています。リビングからは家庭菜園が眺められ、楽しむことが出来るようにしている。	事業所内は床暖房で最近床の張替えを実施した。利用者、職員はスリッパ等を履かずに生活している。ホールには、食卓、ソファ、テレビが配置され、洗面台には、季節の花が飾られている。利用者は、1日のほとんどをホールで過ごし、それぞれ定位置でゆったり寛いでいる。朝食後のホールのモップがけを日課としている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日の殆どをリビングで過ごされ、ソファ、テーブル席に気の合う同士集まって過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や椅子やテーブル、使い慣れた生活用品、着慣れた服。寝具等に囲まれた居室は利用者の気が休まる空間になっている。	居室には、クローゼット、電動ベッド、椅子が備え付けられている。寝具は、本人の使い慣れた物を持ち込んでいる。鉢花を飾り、水遣りをしている利用者もいる。表示に代え、ドアそばの職員手作りの小さなぬいぐるみが目印となっている。ドアには避難確認用のポンポンが、飾りのように吊るされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かる工夫、自分の排泄用品の始末が出来る工夫等、自立に向える支援をしている。		